

ご挨拶

皆さまにおかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

当財団は皆さまのお蔭をもちまして、順調な事業活動を続けることができ、このほど 2016 年度を無事に終了いたしましたので、「Dia レポート 2016」をお届けいたします。

さて、わが国の 2015 年の平均寿命は、女性が世界第 2 位の 86.99 歳、男性が世界第 3 位の 80.75 歳となりました。

日本の 100 歳以上の人口は 1980 年にはわずか 1,000 人ほどでしたが、今や 6 万 5 千人を突破しております。今後 100 歳を超えて生きる人はもっと珍しくなくなります。

医療技術の進歩や生活様式の改善等により、わが国は世界有数の長寿国となり、長い人生を二毛作三毛作で元気に過ごす高齢者も増えています。一方、新生児の出生数は、第 2 次ベビーブーム後の 1975 年に 200 万人を割り込んで以降年々減少し、未婚化・晩婚化の進展や育児と仕事の両立の難しさ等も背景に、2016 年には 100 万人を割ってしまいました。長寿命化、高齢者数の増加、若年及び生産年齢人口の減少といった社会構造の変化は、高齢者自身の心身の健康問題、要介護高齢者を支える家族介護者等の負担の増加、社会保障・福祉財政の逼迫といった様々な問題、課題を我々に突き付けています。何れも、年々その深刻度を増している喫緊の課題です。

当財団は 1993 年の設立以来、民間研究機関として高齢社会における健康、経済、生きがい等に関する様々な調査・研究に取り組み、結果を広く社会に発信するとともに活動成果の普及に努めてまいりました。引き続き、行政・学会・産業界・民間諸団体並びに高齢者の方々との連携を強め、諸課題の解決に向けて実りある調査研究に努めてまいります。

本レポートは 2016 年度における当財団の活動実績をできるだけ分かりやすく皆様にお知らせするものです。

皆さまにおかれましては、引き続き幅広いご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げますとともに、財団の諸活動につきまして、忌憚のないご意見をお寄せいただければ幸いに存じます。



理事長 石塚 博昭